



資源はできるだけ地域の
再生可能なものを使い、採り尽くさない。

石油や石炭、ガスなどのエネルギーはやがて無くなる「化石エネルギー」です。私たちだけが使っているのでしょうか？私たちの子孫のことは考えなくてもいいのでしょうか？そして、化石エネルギーを使うことで発生する二酸化炭素「CO₂」が、地球環境に悪い影響を与えていることが分かり始めました。今、化石エネルギーの使用をどれだけ減らせるかが、持続可能な社会の実現のために最も重要なテーマになっています。しかし、今の私たちの生活にはたくさんのエネルギーが必要で、それらを化石エネルギー以外で賄う必要があります。太陽や風のように、使っても減らないエネルギーを活かすこと、太陽のエネルギーで生長した木材など、植物をエネルギーとして使うことがその解決策の一つです。また、できるだけ無駄なエネルギーを使わずに暮らす、そのような生活を逆にゆったりと楽しむ価値観の転換もあわせて求められます。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN



自然界で分解されないものは
廃棄しない。

ゴミは、ものを使い終えた時だけでなく、作るときにも多く出ます。ですから、半分は作る側の責任。作る側でも考えなければならない問題です。しかし、もう半分は使う側の問題。私たちが、できるだけゴミを出さない生活を心がけなければなりません。そうすれば無駄なものが減り、生活がすっきりと、シンプルになるはず。また、きちんと分ければゴミも資源になります。捨てる前に、リユースやリサイクルができないかを考えましょう。そして、もう一つ。ものを買うときに、本当にそれがなかうかを、よく考えることも大切です。買って使ったあとにすぐ飽きてしまうもの、使えなくなってしまうものは、ものとしての価値がゼロになるだけではなく、ゴミとなり環境へ負荷をかけてしまします。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN



サステナブルな社会を目指す政策をつくり
実践する企業をサポートする。

サステナブルな社会を実現するには、環境に配慮した産業活動が必要です。また、産業が生み出すモノやサービスを、環境に良いもの、環境を生かしたものに変えていかなければなりません。そうすることで新しい仕事が生れます。しかし、せっかく良いアイデアを持っていても、実現するための資金が足りなかったり、専門的なノウハウがなかったりと、多くの課題があるはず。そこで、新しい仕事を始める人を応援できる、仕組みをつくりましょう。そうすれば、まちにサステナブルな会社が集まってきたり、新しいなかが発明されたり、それによって新しい仕事が生まれるチャンスも広がります。そうすれば、まちが今よりも元気になっていくはず。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN



サステナブルな社会を目指す
プロジェクトチームをつくる。

いろいろなエコ活動は盛んでも、全体がどう動くべきかが見えなければ、効果的な結果は得られません。エコ活動全体をディレクションし、政策を実行するためのプロジェクトチームを作りましょう。そして、いろいろな分野の専門家が集まり、お互いの活動内容を共有することが大切です。そうすれば、ひとつの分野で解決できなかったことも、横断的に解決できるかもしれません。また、プロジェクトチームに知識が足りない分野では、外部の専門家と協同することも大切。みんなで決めた取り決めを実行に移すには、協力し合いましょう。三人よれば文殊の知恵。昔の人はうまいことを言っています。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN



10

for sustainable town



人やものの移動のための
エネルギーを抑える。

環境に優しい移動を心がけましょう。移動の規模に合わせて、手段や乗物を選択する。同じ自動車でも、運転の方法だけで環境への負荷は大きく変わってきます。瞬間の速さや力強さより、人や自然に対する優しさを誇れる時代になったのです。徒歩や自転車なら、健康にも良く、街の景色をのんびり楽しみながら移動ができます。個人で取り組むほかに、まち全体で取り組む方法もあります。たとえば、カーシェアリング。みんなで共同の自動車を使えば、移動のためのエネルギー消費が抑えられます。天ぷら油の廃油を公共交通の燃料として利用することもできます。回収した油を集めて精油し、ディーゼルエンジンに使います。バスはほのかな天ぷらの香りとともに、人々をやさしく運びます。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN



サステナブルなまちの未来を
みんなで描いて、政策にする。

様々な環境問題に対して、私たちはどんなまちの未来を描いていけばよいでしょうか。私たち民主主義の国では、地域のことは地域で暮らす私たち一人一人が自分で考え、その意思を伝えながら、みんなで決めていかなければなりません。バスを走らせたり、風力発電の風車を回したり、カーボンニュートラルな学校をつくったり、みんなで「こうあったら素敵だな」と思うまちの将来を描きましょう。そして、それを実現するには、まちの政策、ルールにしなければなりません。政策は議会で決められていきます。議会は私たちが選挙で選んだ議員によって運営されていますから、私たちも議会や議員を通して、まちの未来をいっしょに描いていきましょう。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN



サステナブル
タウンのための



の提言



建築・環境
デザイン学科



東北芸術工科大学

〒990-9530 山形県山形市上桜田3-4-5 TEL: 023-627-2000(代)
URL: <http://www.tuad.ac.jp/>

このカードは、100%リサイクル用紙を使用しています。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN



過去から未来に続くふるさとの
自然や歴史を大切にする。

私たちはたくさんの生き物と一緒に生きています。小さな微生物でさえ土を作り、人間にとって欠かせないものです。世界の珍しい動物も、身近な田んぼや川の生き物たちも、少しずつその姿を消しつつあります。自然は、今を生きる私たちだけのものではありません。先祖から引き継ぎ、子供や孫に引き継いでいくもの。先人たちが培ってきた文化や歴史も、同様にとても大切です。時間が経ってから分かる価値もあります。受け継がれているものには、理由があるのです。私たちは自然と対立するものではなく、その一部。家やまちをつくる材料は自然の中から生まれています。私たちができることは、とりまく自然、そこから生まれた文化、歴史を深く知り、次の世代へ相応しく受け継ぐことです。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN



水や食料は命の根源。
地産地消につとめる。

おいしいものは人を元気にします。おいしい食事はそれだけで楽しく、みんなで食べればもっと楽しくなります。地域で食材が違えば、地域独特の料理ができ、それが地域の食文化になります。人は食べるために生きているといっても過言ではありません。しかしその基本的な行為が、気がつかないうちに危険にさらされています。産地から離れれば離れるほど、食べ物の安全性を管理することは難しくなります。食べ物はできるだけ、作った人と食べる人の距離を近づける努力が必要なのです。これが「地産地消」です。そうすることで、新鮮で美味しく食べることもできます。食べ物は私たち自身。命の源です。そして水は、人にも食べ物の中にも巡る、最も大切な要素です。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN



いまある建物を大切にし、省エネルギー化する。
新築する建物はカーボンニュートラルとする。

いまある建物を大切に使うことは大事です。古くなったからといって簡単に壊すのはもったいないだけでなく、そのために大きなエネルギーが必要となります。また、今ある建物がどのくらいのエネルギーを使用しているか見直しましょう。たくさんのエネルギーを使うようなら、断熱化工事が必要です。これで大きく省エネルギーができます。新築する建物は、初めからしっかりと断熱を行いましょう。また、建物で使うエネルギーの選択にも注意しましょう。太陽や風などの自然エネルギーを利用することが求められています。カーボンニュートラルとって、二酸化炭素の排出量を増やさない点では、木材を原料とした薪ストーブやチップ、ペレットボイラーなどの活用も効果的です。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN



サステナブルな
暮らしを広げる。

ゴミや資源、食物、環境問題の多くは、私たち一人ひとりの暮らしの中に原因があります。どんな暮らしを心がければ良いのでしょうか。一方で、普段の暮らしが環境とどう関わっているのか、複雑でわかりにくいことも事実です。ですから、みんなで問題について話し合い、お互いに意識することができれば、行動にも移しやすくなります。一部の人の活動では解決にはなりません。みんなが環境のことを意識できるように、活動を広めていきましょう。友人や隣近所、学校や職場、そしてもちろん家族にも。そして、活動は分かりやすく、楽しく、具体的に。茶飲み話でも、お祭りでも、イベントでも、肩肘を張る必要はありません。どうすれば、みんなが興味を持てるのか、いろいろなアイデアがあるはず。

TOHOKU UNIVERSITY OF ART & DESIGN
ARCHITECTURE AND ENVIRONMENTAL DESIGN

